

## 薬剤師の知識・経験・疑問、クラウドで共有 岡山大病院の「AI-PHARMA」、他院・薬局にも公開

2021/12/13 14:50



岡山大学病院

岡山大学病院（岡山市）と木村情報技術（佐賀市）が共同で開発する無料のクラウド型医薬品情報データベース（DB）「AI-PHARMA」（アイファルマ）の利用が、2020年4月の公開から1年半あまりで全国の病院や薬局など215施設となった。県薬剤師会の登録もあるという。同DBには利用者が入力した医薬品に関するQ&A（約6万件）やプレアボイド報告（約3万5000件）などが蓄積され、多くの薬剤師がそれらの情報を共有できる。

同DBは、薬剤師を中心とした医療従事者が入力した医薬品に関するQ&Aを蓄積。それを従来の単語検索とAIを活用した自然言語検索を併用して呼び出すことが可能。例えば「ロキソニンの簡易懸濁で通過するチューブの径は」と自然言語で検索すると、Q&Aの

文章に「ロキソニン」と記載がなくても、「ロキソプロフェン錠」のことだとAIが判断し、同薬剤が通過する最小のチューブ径に関するQ&Aを表示する。プレアボイドも登録と検索が可能で、症例管理に活用することができる。登録したQ&Aとプレアボイドは、自施設内だけで公開するか、システム内全体で公開するかを設定することが可能。

同DBの開発プロジェクト責任者を務める同病院薬剤部人工知能応用メディカルイノベーション創造部門の神崎浩孝教授・部門長は、「薬剤師は薬の知識を高めていく必要があるが、薬の種類だけでも膨大なため、実際は（全ての把握は）難しい」と指摘。薬剤師の知識面をデジタルでサポートしていくことで「患者や医師、看護師から頼られる薬剤師を増やしたい」と同DBに込める思いを語る。

また、同DBの特色について「アイファルマは自分のデータを記録して管理できる。このサービスはほかにはない」と説明。「検索対象が、自分のこれまでの知識や経験や、自分の所属する病院の仲間が培ってきた経験や知識。自分や仲間が関わっているデータベースということに価値がある」と述べる。

来年以降はシステムのリニューアルを予定しており、これまで個別に検索する必要があったデータをDB内で横断的に検索できる機能や、情報交換に使える掲示板機能などの追加も予定する。掲示板機能により病院と近隣薬局など施設間の薬薬連携も円滑化できると期待する。

## ●薬薬連携機能を強化し、薬局薬剤師へのさらなる普及も



アイファルマ開発プロジェクト責任者の神崎教授

さらに神崎氏は、システムの利用登録者の増強にも意欲を見せる。現在の利用登録者数は約1400人で、内訳は薬局薬剤師が220人、病院薬剤師1141人など。薬局薬剤師が病院薬剤師の5分の1程度にとどまる。掲示板の追加による薬薬連携機能の強化を機に、薬局薬剤師の利用も推進していきたい考えだ。当面の利用登録薬剤師数の目標は5000人とし、今後の機

能追加などによってシステムの知名度の  
向上を目指しながら、「近く達成したい」と力を込めた。

---

All documents, images and photographs contained in this site belong to JIHO, Inc.

Use of these documents, images and photographs is strictly prohibited.

Copyright (C) JIHO, Inc.

株式会社じほう